

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173501149), 法人名 (社会福祉法人 泰生会), 事業所名 (グループホームこもれび あじさい), 所在地 (伊達市松ヶ枝町154-20), 自己評価作成日 (令和3年12月3日), 評価結果市町村受理日 (令和4年3月24日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173501149-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年2月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は新型コロナの影響により毎年行っているりんご狩りやバーベキュー、ご家族、友人、知人、自治会との交流がほとんどできませんでした。新型コロナの影響により事業所内の疾病対策、蔓延防止策、職員の意識改革を行い一人の感染者も出さずに乗り越える事ができました。職員の外部研修もほとんどが中止のため本年度はできませんでした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は道央道の伊達インターチェンジから近く、周辺には大型商業施設や飲食店、病院、小学校、高校も点在し、また緑や自然も豊かであり、暮らしに便利な住環境下に立地している。開設は2004年で18年目を迎え、2階建ての建物に2ユニット18人の高齢者が生活を共にしている。当地域は伊達市の福祉計画に基づき、福祉の町として高齢者施設や障害者施設が多く建ち並んでおり、法人が違っても相互に連携を取り合う協力体制が築かれている。事業所の隣には堅牢な3階建てのケアハウスがあり、母体法人の本部もあるため防災訓練や行事等は合同で行う等、連携は密に取れており、地元住民を含め安心できる支援体制を整備している。現状コロナ禍でありお祭りやバーベキュー等々は中止状態で、地域自治会と交流は維持できていないが、理念にある地域の一人への思いは困難な現状だからこそ会議等で確認している。事業所の優秀な点は、看取り介護に正面から取り組み、そのための医療連携の充実を挙げたい。利用者の最後の住居であり、終の棲家である事業所は、利用者、家族の要望に応じて、往診医と訪問看護師による24時間の連絡体制を確保し、医師、看護師、家族、職員がチームとなり、利用者の尊厳に充分配慮しながら、心をこめた終末期を支援し、希望や不安への真摯な対応で家族の安心に繋げている。また災害についても24時間対応の対策を講じており、独自の自家発電の完備や隣接のケアハウスへの避難も訓練に盛り込みながら不意の災害に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目 (Item description), 取り組みの成果 (Achievement criteria), 項目 (Item number), 取り組みの成果 (Achievement criteria). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user safety, and support quality.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時のオリエンテーション、各会議(職員会議、カンファレンス等)により利用者様が地域の一員として生活する施設であるという理念を伝え共有し実践している。	「生活に満足できる」「尊厳のある暮らし」「地域の一員」という理念を実践で活かそうと、採用時や研修等、事あるたびに伝え、共有している。またユニットごとに目標を定め、サービス向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナにより運営推進会議、夏祭り等地域住民や家族等の交流はほとんどできませんでした。	地域の自治会に加入し、例年密度のある交流があったが、現状のコロナ禍ではあいさつ程度しか行われていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナにより地域住民や家族等の交流はほとんどできませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナにより運営推進会議は書面のみでの報告となりました	運営推進会議はコロナ禍であり行政の指導により書面開催となっている。また議事内容については行事報告、ヒヤリハットや事故等々で職員に回覧、推進委員や家族へは郵送とし、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長は日頃から役所担当者との連絡を密にとり施設運営、利用者サービスの向上に努めている	管理者は、疑義に関する質問や相談に役所に出向いている。行政担当とは、各種の情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開き、運営推進会議にて発表している	拘束や抑制による不適正ケアの弊害について、職員は十分に理解しており、毎月開催する身体拘束廃止委員会や研修会を定期的に開催して、職員への周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止について職員を年間スケジュールに沿って研修を行い、ケア内容にも耳を傾け精神的ケアも含め伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されているご家族支援や、機会あるごとに日常生活自立支援事業も含め、地域包括支援センターの職員とも連携をとっていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に於いて、契約書、重要事項説明書を提示し納得いく説明を行い同意を頂いている。又解約時にはご家族の不安や疑問点を伺い今後の方向性も視野に入れ十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録を職員に回覧しご家族にはこもれば通信とともに郵送している。またご家族が来所の折には利用者の近況を伝え気になる点等のお話を伺う。	毎月各ユニットごとに通信を発行して家族に日々の状況を伝えるほかに、利用者一人ひとりについても個別にお手紙形式でお伝えし、家族から好評を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、ミーティングで意見、提案があれば、施設長に報告し回答を得る。職員からの相談は必ず回答する	毎朝の申し送りや月の会議、現場での提案と色々な場面で意見を交わせる場を設定し、意見等を聴取している。また必要に応じて個別の面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者は給与に反映される。スキル向上のための研修費用は法人が負担し、職員間の親睦を図るための会費は一部法人が負担している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には年間スケジュールに沿って外部研修に参加し内容を職員間で共有していただく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム広域連合会、北海道グループホーム協会、西胆振福祉施設職員交流会へも参加し交流を図る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や戸惑いに対し常に丁寧に傾聴し寄り添い不安を取り除くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者、ご家族、ケアマネジャー、病院関係者と打ち合わせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等の要望、利用者の生活習慣や依存機能を考慮し、スタッフ間でのアセスメント、カンファレンス等により必要な支援を確認し必要であれば他のサービス利用も含めた対応を行うように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自己決定を尊重し、できる部分を共に支えていけるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の自己決定を尊重し、できる部分を共に支えていけるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自己決定を尊重し、できる部分を共に支えていけるように努めている	馴染みの場所や好みの味、行き慣れた商店、床屋や美容室等、家族の協力を得ながら、馴染みの関係が途切れない様努め支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間、施設内外のレクリエーション等の際には入居者同士の関係が良好になるように見守り声掛けし交流できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お見舞いに伺うなど近況を把握し必要であれば本人、家族をフォローしている。他界されたときは葬儀に参列している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の嗜好、入浴の希望、散歩やドライブ等入居者の希望に沿うように努めている。困難な場合は本人にとって穏やかに過ごせるように配慮している。	利用者の日々を支えながら、思いや願い、希望と意向、好き嫌いを把握している。重篤な状態などで意思疎通が困難な状態でも、仕草や表情などから、また生活歴等から本人本位の生活になるように支援に臨んでいる。	利用者本人が自分の最後の時間をどこで過ごしたいのか等に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、本人本位の介護となるように期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活習慣や環境を把握し、個々に合わせたケアを日頃から努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する力、能力に合わせた対応を心掛けている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等において本人、家族、職員、主治医、訪問看護等からの課題や意見が検討され、その内容が介護計画に反映するように作成している。	職員と必要な情報や現状を論議し、介護計画の骨子を作成し、家族の希望や医療的意見を加味し、介護計画としている。モニタリングは日々の介護日誌を参照しておこない、変更が少ない場合は、6か月間ごとに介護計画を更新している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での支援に関する連絡は連絡ノートを活用しケア実践が円滑に行われるように工夫している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は新型コロナのため受入は制限しました。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナのため受入は制限しました。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を尊重している。医療機関に家族が同行できない場合は職員が同行している。	本人・家族の希望を優先してかかりつけ医への受診・通院を支援している。通院が困難となり往診が必要な場合、家族と話し合い協力病院に切り替わることも生じている。訪問看護とも契約しており、いつでも訪看が利用でき、安心できる医療体制で臨んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が来所の際は利用者の情報を伝え適切なケアを支援できるように努めている。入居者に変化が見られた時は電話で伝え適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関やご家族との情報交換、相談に応じ利用者が安心して治療できるように努め、主治医、医療相談員との面談、病院内カンファレンスへの参加も行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向はもとより、家族、主治医との話し合いを行い、職員とも不安にならないように話し合いを行い、情報を共有しながら最善を尽くすよう努めている。	契約時に指針を書面で説明し同意を得ている。主治医と本人・家族との意向を尊重し、看取り介護を希望する場合は利用者・家族の思いに十分に沿える様、医療と介護等のチームでの取り組みに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習に参加及び更新できるように努め、緊急マニュアル、連絡体制を作成し、いつでも対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難、防火訓練を行い消防職員の評価を受けている、また自然災害にも近隣福祉団体と協定を結ぶ	避難訓練は火災想定で年に2回実施している。有珠山の噴火も想定し、ケアハウスが避難場所となり、また食料の備蓄や冬季の防寒(自家発電あり)も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライド、プライバシーの保護に努め尊厳のある暮らしを支援し心も身体も満足できるように支援しています。	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、利用者の思いに寄り添い傾聴し、生活の中で自己決定できるように言葉をかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールはあるが、利用者のペースに合わせ希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な時に化粧品等を利用して頂き、入浴後の整容、定期的に理美容を利用し個々の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みに応じた食事が叶うように努め毎食職員とともに食事をしている。利用者の残存機能や生活習慣を生かし職員とともに準備や後片付けをしている。	3食のうち昼食作りは職員が最初から最後まで担っており、利用者の好みや不得意を考慮して提供している。利用者の自発的なお手伝いも重度化ゆえに減少している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量、好みの食事形態を把握し支援している。毎日の水分量は記録し一日を通して不足している方には声掛けし摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝時に声掛けし本人の状態によって口腔ケアの介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には自立されているが、状態に合わせて声掛け、誘導、見守り排泄後のケアを行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況の確認、状況に応じて食事や水分を工夫している。主治医の元下剤服用なども対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先し入浴して頂き、毎日の入浴を希望される方にも叶うように努めている。	毎日お湯を張っており、利用者の全員が週に2回以上入浴ができるように努め、希望者はいつでも可能な状態で入浴支援に取り組んでいる。拒否者には無理強いすることなく、時間や介護員に変化をつけ、一人ひとりに沿った支援になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を優先し、不安なことには傾聴対応し安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を共有し服薬確認を行い状態確認も行っている。又服薬管理一覧を利用し服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、ドライブ、歌、手芸、貼り絵、カルタ等を行い楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事やドライブ、買い物等に外出し気分転換を図れるように努めている。季節行事等家族と外出できるように家族の協力を求め支援している。	例年桜や紅葉の季節でのドライブの他、外食や買い物等々家族の協力を得ながら行なって来たが、コロナ禍で実施を控えている。敷地内散歩を中心に、閉じこもらない支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に沿って買い物ができるように、家族の協力を得ながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話の利用、希望があれば家族、友人などに自ら電話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、遮光等刺激のないように工夫している。又季節飾り物、四季の生け花などで季節感を感じていただけるように努めている。	共有空間はキッチンを中心に回廊式になっており、食堂と居間とが別空間でゆったりとして、それぞれが自由に寛いでいる。廊下には観葉植物が飾られ、食堂の天井にはシャンデリアが施され優雅な雰囲気を醸し出している。廊下は広く、車椅子や歩行器も安全に移動が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに談話スペースを確保し利用者同士が穏やかに過ごせるような空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具、使い慣れた食器等をもちこんで頂き、居心地よく過ごせるように支援している	居室にはクローゼットが設置され、有効に使用されている。利用者は家族と相談の上、家具や生活用品など持ち込み、暮らしの形を整えている。得意な書道の掛け軸や、家族写真、趣味の装飾品などを飾り、寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室前に暖簾をかけたり、トイレのドア及び内部に分かりやすく表示を工夫する等工夫している。		